

引用形式「って」における主題提示用法

佐藤 雄一

1 はじめに

「って」という形式は、引用を表す形式として用いられることが多いが、以下に示すように詳細に分析するとその用法は多様であり、〈 〉内の表現に置き換えられると考えられる。()内は出典。

- a 「来週渋谷行くぞ」「渋谷って、東京のですか？」〈というのは〉(お買い物)
- b プライドって言葉は知ってるだろう？ 〈という〉(ほく)
- c これを甘皮って言うのよ。〈と〉(ほく)
- d 子供ってそんなに馬鹿じゃないのよ。〈というのは〉(ほく)
- e 普通に部活やっても平気だって。〈とさ〉(ほく)
- f やめとけって。〈といっているだろう〉(任侠ヘルパー)
- g おじいちゃん、倒れたんだって？ 〈だと〉(ほく)

引用を表す助詞「と」に置き換えられるものや「という」「というのは」などのように動詞「いう」の意味までも含んでいると思われるもの、さらには文末に用いられ、強く訴える終助詞のように用いられるものなどがある。このような「って」は、話しことばでしか用いられないものであるが、引用という基本的な用法から多様な広がりを見せている。

本稿では、これらの用法の広がりの中から、「主題提示」といわれる用法がどのように位置づけられるのか、「主題提示」といわれる用法はどのような機能を有し、現代語においてどのように用法が拡張してきているのかを明らかにする。

2 先行研究

「って」は、これまでいくつかの観点から先行研究がなされてきている。三枝(1997)は、「って」の用法全体を体系的に分析し、丹羽(1994)、竹林(2004)は、「って」の基本的な用法を視野に入れたうえで「主題提示」と呼ばれる用法とのかかわりについて考察している。さらに、「主題提示」の用法に焦点を絞った考察としては、安斉(2001)、岩男(2008)などがあげられる。このほか、「って」の用法の通時的な考察を行った牧(1997a)、現代語の使用状況の広がりを考察した朴(2006)などがあげられる。

まずは、先行研究における「って」の用法分析を確認したうえで、それが「主題提示」といわれる用法とどのように関わっているのかについて考察していく。

2.1 三枝（1997）の分類

三枝（1997）は、「って」形式成立の歴史的な背景をふまえて、その用法を「引用」と「逆接」に大別している。そのうえで、引用を「引用」、「反復」、「話題の引き込み」、「伝聞」、「言いつけ」、「問い返し」、「訴えかけ」の7つに分類し、逆接を「逆接」「主題の添加」「反発」の3つに分類している。三枝（1997）の用例を用いてまとめると以下のようになる。

引用	引用	例) 俺の子(だ) <u>って</u> 思った。すぐ戻ってくるって出かけた。
	反復	例) それだけ <u>って</u> , 何がある。
	話題の引き込み	例) 雨が降る <u>って</u> , 嫌だ。雨 <u>って</u> , 嫌だ。
	伝聞	例) 雨が降る <u>んだって</u> 。明日は雨 <u>だって</u> 。
	言いつけ	例) 雨が降る <u>だって</u> 。∨雨 <u>だって</u> 。∨
	問い返し	例) 雨が降る <u>だって</u> 。∧雨 <u>だって</u> 。∧
	訴えかけ	例) 雨が降る <u>ってば</u> 。早く来 <u>いって</u> 。
逆接	逆接	例) 雨が降 <u>ったって</u> 行く。水だけ <u>だって</u> 生きられる。
	主題の添加	例) 私 <u>だって</u> 写せる。
	反発	例) <u>だって</u> , 知らなかった。

「って」の用法全体が俯瞰できる点は評価できるが、「引用」「逆接」の下位区分に「引用」「逆接」という分類が用いられている点や、細分類すべきもの（たとえば、同じ「引用」でも発話・思考動詞が明示されている引用なのか、発話・思考動詞が省略されている引用なのかは分けて考えるべきであろう）がある点は、再考の必要がある。

2.2 牧（1997b）の分類

牧（1997b）は、現代文の「って」の用法を次の9つに分類している。

- 1) 「と」で引用部を受け、接続助詞「て」で、下接部へつなぐ本来の用法
例) …「お姉さんお姉さん」って, 大切にしてくれますけどね。
- 2) 「って」の文末用法（「って」は発話引用を表す単なる記号化）
例) 風邪だってさ。
- 3) 「って」に「言う」が下接する用法（「って」を「とって」の省略と考えるときに「言う」を補うのは重複表現となる）
例) 夏の花が好きなのは、夏に死ぬって言うけれども…

- 4) 「って」が発言以外のものを引用する用法
例) 私たちの子供を産んでおくれ、って書いてございました。
- 5) 逆接条件の用法
例) それだって、かまわないんです。
- 6) 主題強調の用法 (口語的なイメージのこの用法が現代語の特徴)
例) アメリカってすごいよ。
- 7) 「って」に体言相当の語が下接する用法
例) 芝居ってものがちゃんと分かってきて…
- 8) 「って」に「言う」が下接し、体言相当の語に続く用法
例) ああ、そうかっていう感じで…
- 9) 慣用的な用法
例) 大丈夫だってば。

また、牧 (1997a) は、「って」を「引用」と「指示」に大別している。「引用」は「事務室に取りにきてくださいって」のように発話文を引用したものであり、「指示」は「事務室って 宿舎の事務室ですか」のように体言に付いているものである¹⁾。1)~4) の例が「引用」の「って」であり、6)~8) が「指示」の「って」である。しかし、発話文から文単位で引用する場合と、一部の体言を引用する場合にはどのような違いがあるのか、また、発話文中から引用された体言の提示と、発話文中にない体言の提示がどのように異なるのか、「引用」と「指示」の区別の基準をより厳密に定義する必要があるだろう。

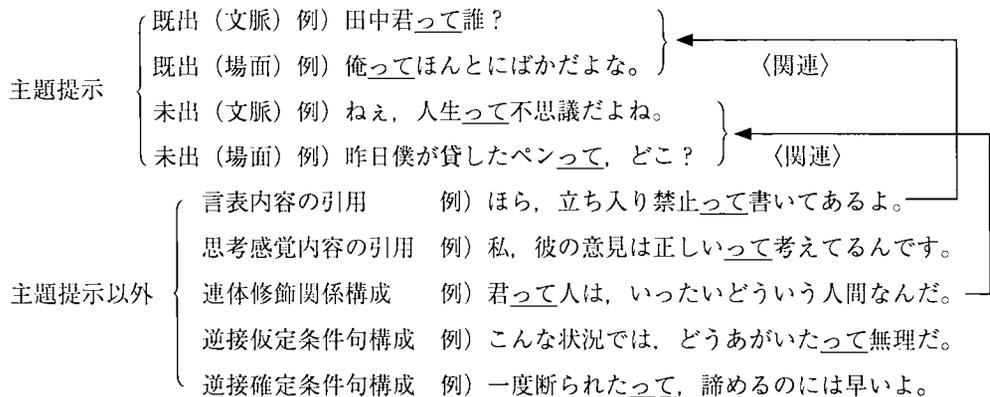
また、歴史的な背景から、1) の用法を本来の用法とし、そこからの派生関係に着目して分類したために、構文的な観点が出ていない。「って」の共時的な機能も視野に入れた分類が必要であろう。

2.3 竹林 (2004) の分類

竹林 (2004) は、次の例のような「って」の用法を主題提示としている。

- ・君って、案外すばしっこいんだね。
- ・(正体不明のものを見せられて) それって何？

そして、このような「って」の主題提示の用法を、それ以外の用法との関連の中でとらえている。「って」の用法を主題提示とそれ以外に大別し、主題提示の用法においては「って」によって提示される要素が文脈や場面に既出であるか未出であるかによって4つに分類している。また、主題提示以外の用法については5つに分類している。竹林 (2004) の用例を用いてまとめると以下ようになる。



「連体修飾関係構成」や「逆接仮定条件」、「逆接確定条件」といった構文的な機能に基づいた分類が行われている。「主題提示」の用法が「主題提示以外」の用法とどのように関連しているかという指摘もあり、「主題提示」用法を中心とした、「って」の用法が見渡せる点は評価できるが、「主題提示」の用法における分類に疑問が残る。既出の要素に対しては、それが文脈上既出であるのか、発話の場面に既出であるのかということは特定することができるが、未出の要素に対して（つまり、はじめて提示される要素に対して）文脈上はじめて登場しているのか、それともその場面にはじめて登場しているのかを特定することは困難であり、未出の要素に対して場面と文脈に分けること自体にどのような意味があるのか再考する必要があるだろう。

3 本稿での分類

先行研究を踏まえて、本稿では「って」の用法の関連性を次頁の図のように捉える。

3.1 言表・思考内容の引用

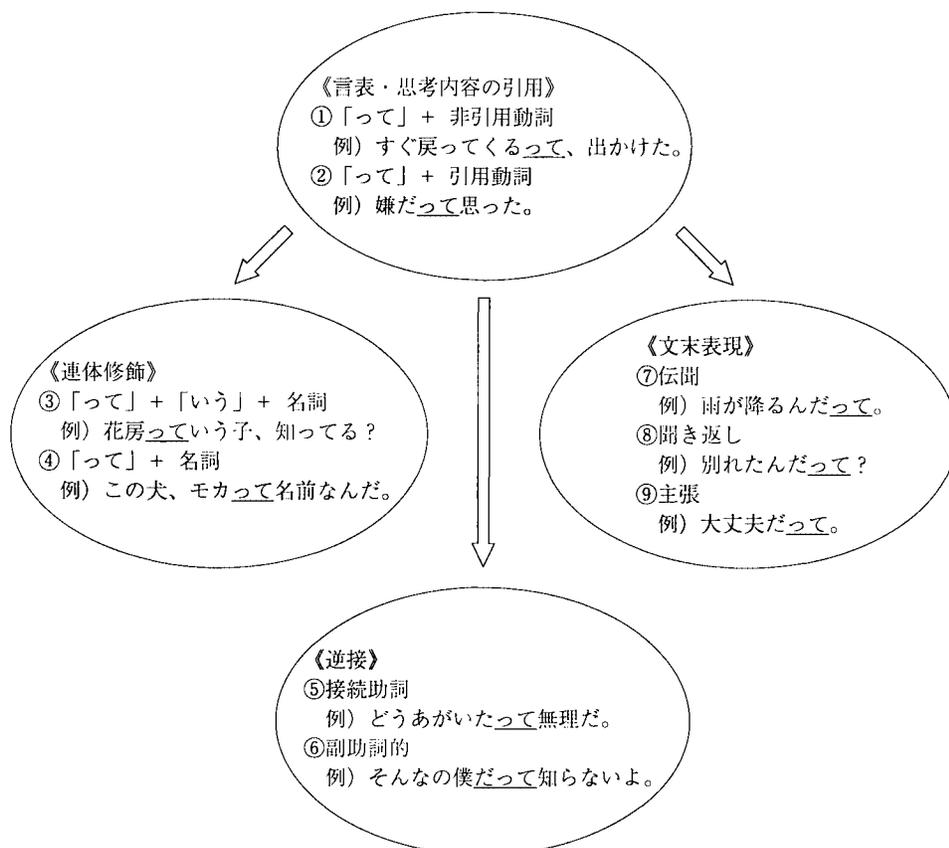
歴史的には「とて」の口語的な表現として「って」が生じたと考えられている。此島(1973)は、「とて」の用法について次のように述べている。

「とて」は引用の「と」に接続助詞「て」の附いたもので、

「見奉りてくはしく御有様も奏し侍らまほしきを、待ちおはしますらむを、夜ふけ侍りぬべし」とて急ぐ（桐壺）

のように用いられるのが本来で、「て」は順逆に関しないのであるが、逆接の意の^逆ほあい用いられることが多くなって、「とて」自体が逆接の意を帯びるようになったものである。（p150）

このように「って」は「と（いひ）て」から生じたものであり、動詞「いふ」の連用形に接続する接続助詞「て」は前節と後節を順接や逆接といった特定の関係で結び付けるも



のではなかった²。したがって、言表・思考内容を引用している用法でも①のように、非引用動詞³を伴う用法の方が「って」のより基本的な用法であると考ええる。

①の用法では、「言う」という動詞の意味が残存しているのに対して、②の用法では「って」に引用動詞「思う」が付いていることから、「って」にはもはや動詞の痕跡はなく引用を示す格助詞「と」と同じ機能を果たすようになっていいると考えられる。

これは、「～について」「～にとって」のような後置詞（あるいは複合格助詞）と呼ばれるものが、「格助詞+動詞（の連用形）」という形式を保持しているにもかかわらず、動詞本来の意味は薄れてしまっており、「～について」「～にとって」全体で格助詞と同じような働きをするようになっていいるのと類似した現象であると考えられる。ただ、「って」の場合、動詞「いう」の形式自体が省略されてしまっているために、後置詞よりも格助詞化しやすかったといえるだろう。

3.2 連体修飾

③のような「AっていうB」という表現においても、②と同様に「って」は格助詞化し、「AっていうB」と同じ意味を表している。「AっていうB」（「AっていうB」）がどのような表現内容を持つかについては、後述するが、言表・思考内容の引用との大きな違いは、連

体修飾用法においては「って」は、必ずしも引用句に付くというわけではないという点である。「引用」の場合は、必ず言表内容や思考内容に「って」が付いていたが、連体修飾用法においては、何らかの叙述内容に付くわけではなく、名詞に付いている。牧(1997a)はこの点を重視し「引用」と区別し「指示」という用法として位置づけたと考えられる⁴。

③のような「A っていう B」という表現から動詞「いう」が省略されたものが④の「A って B」である。動詞「いう」の連体形によって連体修飾が可能であったものが、動詞そのものを省略してしまって「って」だけで連体修飾機能を担っていることになる。この現象だけをとらえれば、「って」は、格助詞から連体助詞へ用法が拡大したと解釈できよう。

3.3 逆接

言表・思考内容の引用から、逆接の用法への拡大については、前述の此島(1973)が指摘しているように、本来は順接、逆接どちらにも用いられていたものが、逆接に用いられることが多くなり、「とて」自体が逆接の意を帯びるようになったと解釈できる。そういう意味では、言表・思考内容の引用の①から逆接用法が派生しているという図示の仕方の方がより厳密であろう。次のような例は、引用と逆接の連続性を示唆するものである。

A: 良く似合うって誉められたよ

B: 誉められたって、どうせ、そこらのばあさんにだろ(ほく)

B': 誉められたって、うれしくないだろう?

Bの「誉められた」は、Aの発話中の「誉められた」を引用したものだが、「どうせ」以下の発話によって、逆接的なつながりを感じさせる。B'のような発話になれば、もはや引用ではなく、逆接として位置づけるべきであろう。

逆接の用法は引用から拡大したものであるから、「って」(とて)は節に付く。節を構成する用言に付いていた「って」が節を構成する「名詞+だ」(したがって用言相当)につくようになったものが⑥のような「名詞+だって」の用法である。「名詞+だって」を「名詞+だ+とて」からの派生であると考えれば、この用法を接続助詞「とて」との関わりで捉えることは無理のない解釈であろう。

ただし、現代語においては「だ」+「とて」という意識はなくなり、次の例のように「だって」でひとつのまとまりと捉えられ、格助詞につくことも可能になっている。

・ほくにだってできる。

・ひとりでだって帰れる。

このような用例から考えると、「だって」は「だ」+「とて」と二つの要素から成り立っているものではなく、まとまった一つの要素として副助詞的な働きをしていると捉えることができるだろう。

この用法を逆接と捉える点には問題があるかもしれないが、接続助詞「とて」とは十分な関連性が認められるため、この副助詞的な用法も逆接という枠の中で捉えることにする。

なお、竹林 (2004) は、逆接を表す「って」を「逆接仮定条件」と「逆接確定条件」に細分しているが、本稿ではこれらを区別する立場はとらない。どちらも逆接の用法であり、「仮定」か「確定」かは、文脈に左右されるもので、「って」の機能そのものの違いではないと考えるからである。

3.4 文末表現

⑦⑧⑨いずれも、「って」の後ろにある引用動詞が省略されたものであると解釈できる⁵。文末表現としてひとまとまりにすることも可能であるが、モダリティという観点から大きく異なるために「伝聞」「聞き返し」「主張」と細分した。品詞という観点からは、いずれも終助詞という位置づけになるだろう。

「主張」に関しては、次の例のように「ば」を付けることもある。

- ・やめてってば。
- ・鍵をあけてってば。(スイート)

引用動詞を補うことができないという点で、「って」の主張の用法は、より終助詞化していると言える。

4 主題提示の用法

前節では、「って」の用法が言表・思考内容の引用から、連体修飾や逆接、文末表現へと広がっていくさまを確認したが、三枝 (1997) の「話題の引き込み」、牧 (1997b) の「主題強調」、竹林 (2004) の「主題提示」といわれる用法については触れなかった。本節では、この用法について考察することにする。

4.1 「名詞+って」の基本的な機能

- a 田中君って、誰？
- b 人生って不思議だよ。

a, b はいずれも、前節で述べた用法には当てはまらない。a は、相手の発話から「田中君」を引用している点では「って」の言表・思考内容の引用と共通しているが、発話内容を文（あるいは節）の形で引用していない点や、引用動詞も非引用動詞も用いられていない点で異なる。b の「人生」は言表・思考内容を引用したものではない。いずれも「って」によって名詞を提示し、その属性について述べている（尋ねている）文であり、「って」は名詞を主題として提示していることになる。このような名詞に付く「って」について田窪 (1989) は、次のように述べている。

この「Nって」という形式は、記号の名前だけが定義されており、記号の意味、指示対象のうちどちらか、あるいは両方が定義されていない要素を表す形式と考えられ

る。

つまり、aの例では「田中君」という言語記号そのもの（記号の名前）は提示されているのだが、それが「どのような人物なのか」「誰なのか」同定できていない（つまり言語記号の記号内容が定義されていない）場合に「って」が用いられるということである。

さらに、田窪（1989）は「って」は記号の名前だけを示す表現であるとしたうえで、記号を新しく定義するとき、また、自分自身の発見により、記号を定義しなおすときにも使われると述べている⁶。bのように「人生」という言語記号とその記号内容はすでに知っているが、すでに知っている記号内容を改めて捉えなおすときに「って」が用いられるということである。この、「記号を新しく定義する」「記号を定義しなおす」という「って」の機能に対する解釈は、田窪（1989）以降、類似の表現で指摘されていくことになる。

4.2 主題提示用法の分析

「って」には主題提示の機能があるが、どのような要素を提示するのか、提示した要素についてどのような叙述をするのかという点から、いくつかのグループに分けることができる。丹羽（1994）は主題提示の「って」を次のように分類している。

○言葉を再現して提示する用法

- ・意味を問題にする文における「って」

例) ゲノムって何？

- ・いかなる言葉であるかを問題にする文における「って」

例) 山田がやめたって本当？

○捉え直し主題を表す用法

- ・内実の捉え直し

例) 田中さんって意外に引っ込み思案なんだよね

- ・存否を表す場合

例) 誰かB型の人っていますか？

田窪（1989）が、「新しく定義する」「定義しなおす」と位置付けた「って」の用法をさらに詳細に分析した結果となっている。

丹羽（1994）のほかにも、三枝（1997）は「って」について「『というのは』『ということとは』という表現への言い換えが可能で、これは、定義性格付けに他ならない（p26）」という指摘しているし、安齊（2001）は「名詞句Xの、今まで知らなかったある属性を知識の中に取り入れる操作を行うとき、（中略）属性を再度取り入れる操作を行うとき、（中略）属性を書き換える操作が必要なときに用いられる（p289）」という見解を示している。いずれも田窪（1989）の延長線上にあると考えてよいだろう。

このような「って」の主題提示用法は、「というのは」と同じ機能を有していると考えられる。「X という Y」という連体修飾構造における「Y」が、具体的な名詞から抽象化

し、準体助詞となったものが「というの (は)」と考えれば、「って」は連体修飾用法が拡張したものであると位置づけることができる。

5 主題提示における「再定義」, 「捉え直し」の問題点

田窪 (1989) が述べた「って」の機能「記号を新しく定義する」「記号を定義しなおす」と丹羽 (1994) の「主題提示」の用法とのかかわりについて考察する。まずは、「言葉を再現して提示する用法」について考える。

① A「へりくつはやめなさい！」

B「へりくつってなに？」(エジソン)

②「手術をすることになった」「手術って何の手術ですか？」(丹羽)

①の例は、A (大人) の言った「へりくつ」という単語の意味そのものをB (子供) は知らないために、「へりくつ」を単なる記号形式として扱い、述部でその記号内容 (意味) を問うという表現になっている。

②の例も、A の発話から「手術」を記号形式しか知らない要素として提示しているが、この場合は、「手術」という語そのものの意味がわからないのではなく、発話時点での文脈においてどのような意味かわからないということになる。記号形式しか知らない要素が提示された場合に、そこに求められる「意味」というのは、単語 (や文) そのものの意味から、文脈上の意味まで幅がある。

ここでの「って」の機能は、あくまで記号形式しか知らない要素として提示するというはたらきである。「って」が「新しく定義づける」ときに使われるとか「再定義する」ときに使われるというのは、文のレベルでのことであって、「って」そのものの機能であるとは言えない。「って」が記号形式しか知らない要素を提示することによって、述語には提示された記号形式の属性などの記号内容にあたる表現が求められることになる。その結果、文全体として「新しく定義づける」あるいは「再定義する」という性質を持つことになるのである。

次に、以下の例のように言表内容を引用していない「捉え直し主題を表す用法」について考察する。

③人生って不思議だね。

④子供ってそんなに馬鹿じゃないのよ

これらの例において、「って」は「というの」と同じ機能を果たしていると考えられる。先にも述べたが、この「というの」という形式は「という」の連体修飾用法と関連づけて考えることができる。「X という Y」という連体修飾構造における具体的な名詞「Y」が抽象化され「X というもの」あるいは「X ということ」という形式となり、さらに「こと」「もの」が抽象化され、文法的に名詞であることを表示するだけの準体助詞

「の」となった形式が「というの」である。

具体的な名詞を用いた「XというY」という表現においては、「X」が下位概念（あるいは具体的概念や事物）であり「Y」が上位概念（あるいは抽象的概念や事物）となる。

- a 可能にしたのは「マイクロサージャリー」という技術だ。(朝日 10.08.29)
- b 回腸囊炎という病気の原因の一つは、… (朝日 10.08.31)
- c 編集という仕事を通して時代とどうかかわるか… (朝日 10.08.29)
- d 15坪という逆境が知恵と工夫を生んだ。(朝日 10.08.31)

a～cについては、「マイクロサージャリー」「回腸囊炎」「編集」がそれぞれ、「技術」「病気」「仕事」の下位概念であることを示している。dの例では、「15坪」という面積が「逆境」の下位概念であるとは考えにくいですが、「逆境」の具体的な説明として「15坪」という土地の狭さを示していると考えれば、「X (= 具体的概念) という Y (= 抽象的概念)」という構造からはずれるものではない。

この「XというY」という連体修飾句において、「Y」が具体的な名詞ではなく、より抽象化した名詞「もの」として表現されたものが、「Xというもの」である。上位概念「Y」がより抽象化しているため、具体的な事物としての「X」ではなく、観念化した「Xというもの」として捉えられていることになる。

- e 新成長戦略実現会議というものを立ち上げ、… (朝日 10.09.10)
- f 掃除しにくい角や隅というものがどこにもない。(朝日 10.09.07)
- g 本来の親子関係というものを取り戻したいものである。(朝日 10.09.05)
- h 長い間、親というものは心も体も強いものだと思い込んでいた。(朝日 10.08.24)
- i スーパーヒーローというものは、テレビや映画の中だけの存在だと思っていた。
(朝日 10.07.27)
- j 人生のめぐりあわせというものは不可思議なものである。(朝日 10.07.15)

「Xというもの」の抽象的な名詞「もの」が、文法的な機能としての名詞性だけを維持している「の」に置き換えられることによって、「Xというの」という形式となる。そして、「X」を観念化した表現としての「Xというの」が話しことばとして用いられる場合、「Xって」という形式を取るようになる。

上記の例hとjの「というものは」は「って」に置き換えて表現することが可能である。以上のように、「XというYは」→「Xというものは」→「Xというのは」→「Xって」というように「Xって」は「XというYは」という連体修飾構造を持つ名詞句からの拡張用法であると考えられる。この「Xって」は「X」を観念として捉え直すという点で、「捉え直し」(丹羽 1994) や「新しい定義づけ」「再定義」(田窪 1989) ということもできる。しかし、前述したように文全体としての「新しい定義づけ」「再定義」とはまったくレベルが異なるものであり明確に区別すべきである⁷。

丹羽 (1994) が述べる「捉え直し主題を表す」用法は、「って」による主題提示のあり

方について述べたものであるが、その下位分類である「内実の捉え直し」は、文レベルでの叙述内容に基づいて分類したものと解釈できる。主題提示と叙述内容というレベルの異なるものに、「捉え直し」という共通した表現を用いることについては再考が必要であろう。

以上の考察から、次のようにまとめることができる。「って」の主題提示には名詞を記号形式しか知らない要素として提示する用法と観念化して提示する用法の2種類がある。前者は名詞を、意味とは結びついていない形式だけの言葉として提示しているのに対し、後者は観念化されてはいるものの、なんらかの意味（指示内容）と結び付いた記号として提示している点が異なる。そして、記号形式しか知らない要素として提示されたものに対して、述部ではその記号内容（意味）が述べられることになり、観念化して提示されたものに対しては、属性や存否について述べられることになるのである。

また、観念化して提示するということが指示対象の輪郭をぼかすということにもつながっていく。その結果、そのものが何であるか（どんなものであるか）よく知らない対象を提示する場合にも「って」が使われるようになり、述部の叙述内容も属性や存否といった基本的な用法から拡大して行くことになる。

6 主題提示の「って」とモダリティとの関わり

手塚（2001）は、モダリティの観点から「って」形式の文のタイプを次の4つに分類している。

- A「発見」 例) タピオカって結構おいしいなあ
- B「質問」 例) これって誰の? 山田が大学やめたって本当?
- C「同意要求」例) さやかちゃんってやさしいよね。
- D「教え」 例) 中国って人口が多いんだよ。

「って」が以上のようなモダリティの文にあらわれるということは、「って」が持つ機能すなわち「記号形式しか知らない要素として提示する」とこと密接にかかわっている。よく知らないものとして提示した要素に対して、ある属性を叙述する場合には、あるものに対して認識を新たにしたいという心的態度である「発見」となるだろうし、聞き手の認識を新たにするために用いられれば「教え」となる。また、よく知らないものとして提示した要素に対する属性の叙述が適切であるかどうかを聞き手に確認しようとすれば「同意要求」となるだろうし、「記号内容」そのものを尋ねようとすれば質問となる。「って」がよく知らないものとして提示するという機能を有しているため、「確認要求」や「質問」というモダリティと共起することが多いのである。

一方で、「って」は次のような断定のモダリティとは共起しない。

- ・山田さんって教師だ。

断定のモダリティは、すでに認識していた記号内容（属性の叙述）を聞き手に伝えるも

のであり、そこには「って」に呼応するような「新しい認識」や「再認識」が含まれていないからである。同じ内容でも、「発見」や「教え」、「質問」「同意要求」のモダリティを用いれば、適格な文となる。

- ・山田さんって教師なんだ。(発見)
- ・山田さんって教師なんだよ。(教え)
- ・山田さんって教師なの？(質問)
- ・山田さんって教師だよ。(同意要求)

このことは、「山田さんって」という主題提示の方法に対して、「教師である」という叙述内容が記号内容として不適格なのではなく、叙述内容をどのような心的態度で述べるかという述べ方が重要な要素となっていることを意味している。

「Nって」という形式で、名詞(句)を「記号形式しか知らない要素として提示する」あるいは「観念化して提示する」場合、断定のモダリティは許容度が低く、発見や教え、質問、同意要求など叙述内容によって「新しい認識」や「再認識」をおこなうようなモダリティは、許容度が高くなると言える。

7 「って」の用法の広がり

朴(2006)は、藤村(1993)をふまえながら、「って」の用法の広がりについて次のように述べている。

「って」の名前しか分からない用法が、よく分からないものを指す用法へ、さらにただ単に分からないものを指す方向へと変化していると考えられる。(p115)

そして、情報の縄張りという観点から、「って」は話し手の縄張りに属さないソトのものに対して使われやすく、よく分かっているもの、近いもの、ウチのものに使われる場合は捉え直しとして、指示対象に対する話し手の何らかの心的態度を表そうとするものであると述べている。そのうえで、共通知識や一般知識、発話場に存在してすぐに知覚できるものに付く「って」を「よく知っているものを捉え直す『って』」と「指示対象をぼかすことで和らげの表現として用いられる『って』」に分けている。これ以上の具体的な記述がないため、「捉え直す」用法がどのような性質のものを指すのか、「和らげ」の表現とどのように異なるのかなど、不明な点はあるが、「話し手と聞き手の間にその指示対象が明確に一致していることがわかっているものをまるで『ソト』のものであるかのように捉えようとする(p116)」という「って」の用法に関する指摘は、首肯できる。

以上のように「って」の用法が広がりを見せていることを確認するために、朴(2006)は、1992年と2003年にアンケート調査を行っている。「って」が含まれている49の例文について、「自然」と感じるかどうかを尋ねたものである。その結果、いずれの年においても「おかしい」と判断された例文(「全く自然」と「自然だが若者言葉的」の合計が50%未

満のもの)は、以下の通りである。()内の数字は、2003年の調査において「全く自然」「自然だが若者言葉的」と判断された割合の合計である。(用例番号は筆者)

- ① 私(僕)、宮沢りえって好きです。(31%)
- ② こんな帽子ってどこで買ったの?(25%)
- ③ こんな帽子ってどこで売ってるの?(29%)
- ④ (しばらく話したあとで)ところで、あなたってどなたですか?(30%)
- ⑤ (いきなり)あなたってどなたですか?(20%)
- ⑥ こんな電話って便利?(26%)
- ⑦ 田中さんの奥さんって会ったことありますか?(20%)
- ⑧ あなたの作ったケーキっておいしかったよ(10%)
- ⑨ 田中くんの書いたレポートってよくできていたね(46%)
- ⑩ (南山大へ教えに行っている名大の先生が南山大の先生に)君の大学の学生ってよく勉強するよ(31%)
- ⑪ この鮭って塩辛いよ(22%)

朴(2006)は、「って」の用法がどの程度許容されているのか、性差、世代差という観点から考察したものであるが、それぞれの例文が、どのような意図をもってアンケートの対象とされたのか、詳細な記述はない。そこで、本稿では朴(2006)のアンケート調査の結果から、許容度の低かった用例を「って」の用法や文の叙述内容という観点から考察を試みることにする。

「って」の用法を「分からない記号形式の提示」という基本的な用法からの拡張と考えると、述部では「って」で提示された要素の記号内容、つまり属性が述べられるのが最も基本的であると考えられるが、①は「好きです」が「宮沢りえ」の属性とは捉えにくいため、許容度が低いと考えられる。

しかし、実際には述部に「好き」「嫌い」を含む用例は、アンケートの結果ほど許容度が低いとは思われない。

- ・私、窓って大好き。(スイーツ)
- ・私、土曜日って大好き。(スイーツ)
- ・私は、そういう綺麗ごとを口に出すのって、好きじゃないの(ぼく)
- ・女子のみなさん、メイクって好きですか?

(<http://www.ci-labo.com/b-labo/03/index.html>)

- ・運動って好き?嫌い? (http://www.iidawjc.ac.jp/?page_id=304)

「好き」「嫌い」は「～が好き」「～が嫌い」のように補語としてガ格を要請する。このガ格は「好き」「嫌い」という感情の対象を表すと考えられるが、「好かれる」「嫌われる」という属性を有しているという捉え方も可能である⁸。

「って」を用いた表現の「属性を述べる」という基本的な用法から広がった、拡張的な

用法として許容される可能性は十分にある。①の許容度が低いと判断された要因としては、丁寧体「です」が考えられる。筆者が行ったアンケート⁹では、①の普通体①'に対して、68%が「自然」であると回答している。

①' 私(僕)、宮沢りえって好き。

「好き」「嫌い」の用法と類似したものとして、次のような用例がある。

- ・私、勉強しか取り得のない男の人って、やっぱ苦手みたい。(ぼく)
- ・人のプライバシーに立ち入ろうとする奴って、私、我慢がならないのよね(ぼく)

また、次のような可能表現も属性表現からの拡大用法と考えることができる。

- ・(「何それ」「ホワイトソース」) ホワイトソースって作れるの？(お買い物)
- ・ザリガニって食べれるんですか？

可能表現は、動作主体の能力と捉えることもできるし、対象の属性と捉えることもできる。「ホワイトソース」が「作ることができる」という属性を持つものとして、「ザリガニ」が「食べることができる」という属性を持つものとして捉えられることによって、「って」の用法としての許容度は高くなると考えられる。

②、③の許容度の低さの要因は「こんな」という表現にあると考えられる。

「って」によって観念化して提示されるものは、一般化されたものかまたは具体的なものがより自然であると考えられる。一般的化されたものや具体的なものについては、その属性を述べるのが可能であるが、「こんなX」の場合、話し手が「X」のどの側面を形容して「こんな」と述べているのか理解することが難しく、話し手と聞き手の間で共通認識が成り立ちにくい。朴(2006)のアンケートでは、「こんな帽子」よりも「この帽子」(「この帽子ってどこで買ったの?」「この帽子ってどこで売ってるの?」)の方が許容度が圧倒的に高い(それぞれ「自然」81%、83%)¹⁰。

次に、②の述語「買った」と③の述語「売ってる」の違いについて考察する。「買った」よりも「売っている」の方がやや許容度が高い(それぞれ「自然」25%、29%)。同様に「この帽子ってどこで買ったの?」と「この帽子ってどこで売ってるの?」では、後者の方が許容度がやや高い。インターネットで検索しても、後者の用例の方が多く見られる。

- ・英字新聞ってどこで売ってるんでしょうか？

(<http://questionbox.jp.msn.com/qa886615.html>)

- ・資生堂インウイって、どういうところに売ってるのですか？

(<http://oshiete.goo.ne.jp/qa/229421.html>)

- ・さんわの手羽唐ってどこに売ってるのですか？

(http://www.otoriyose.net/cgi-bin/qa.cgi?q_id=q0000177)

「売っている」は「～が売っている」「～を売っている」というように、用いられる格に「ゆれ」が見られる表現である。物を主語として提示すれば「○○が売られている」とが格を取るのが規範的であり、動作主を主語として提示すれば「[動作主]が○○を売って

いる」とヲ格を取るのが規範的であろう。しかし、規範的であるとは言いがたい「〇〇が売っている」という表現が少なからず見られる。その理由として又平(2001)は『「商品として物が存在している」ということだけを表現するためには、冗長的でない規範的な言い方では表しにくい(p93)』ことをあげている。「売っている」という表現が「商品として物が存在すること」を表す用法として使われているのであれば、商品を「って」で提示し、「〇〇ってどこに売ってる?」という表現も、存否について述べる表現から拡張したものと考えることができるだろう。筆者が行ったアンケートでは、「買ったの」を「自然」と答えたのが18%であるのに対して、「売ってるの」を「自然」と答えたのは56%であった。

④、⑤の「あなたって」という用例も許容度が低い。「あなた」は代名詞であり、「って」の記号形式しか知らない物を提示する機能とはなじみにくいということも考えられるが、以下のような例があることから、代名詞「あなた」に「って」がつくこと自体は、許容度が低いとは言えないだろう。

・あなたって、嫉妬深い妻みたいなことを言うのね。(スイート)

では、④、⑤の許容度の低さの原因はどこにあるのか。

a あなたって誰ですか?

b あなたって誰なの(誰なんですか)?

bのように説明を求めるようなモダリティが明確に表れていると許容度が高いように思われる。「本当は誰なのか」「正体は?」と言ったニュアンスで解釈することができ、「って」による提示と矛盾しないからである。これは、主語が三人称でも同様である。

・あの人って誰なんだッ(シバトラ)

主語が三人称の場合は、単純な疑問文でもそれほど許容度は低くはないと思われる。

つまり、④、⑤の許容度の低さは、二人称と単純な疑問というふたつの要素の組み合わせにあると考えられる。聞き手に対して、聞き手自身のことを観念化して提示したにもかかわらず、再定義や確認ではなく単純な疑問の形で尋ねることに矛盾が生じるからではないだろうか。

⑥の許容度の低さも、②、③同様「こんな」に要因があると考えられる。「この電話って便利?」の方が許容度が高い(「自然」89%)。

⑦は経験を問う表現である。「って」を用いて、経験の有無を問う表現はそれほど許容度が低いとは思われない。

・銭湯って行ったことある?

(<http://point.ecnavi.jp/vote/?pgid=7&eqid=1091&vtg=1>)

・うなぎの天井って、食べたことある?

(<http://r.tabelog.com/tokyo/A1324/A132402/13043166/dtlrvwlst/1198586/>)

・ゾウアメフラシって見たことある?

(http://www.ne.jp/asahi/janolus/toyamensis/A_gigan.htm)

⑦の許容度が低い（朴のアンケートで「自然」は20%）のは、「田中さんのお奥さんって」が動作主（田中さんお奥さんが）とも対象（田中さんの奥さんに）とも解釈されうるという曖昧さのためであり、経験の有無について述べる表現が「って」による主題提示とはなじまないということではないと考えられる。そのような曖昧さの生じない上記の用例の許容度は高いと推測される。筆者のアンケートでは、⑦の例文に対し、75%が「自然」と判断している。

⑧～⑩は、いずれも述部が属性表現となっているが、終助詞「よ」が用いられている表現は許容度が低い。終助詞「よ」は、話し手のほうが聞き手より情報に対する認識の度合いが高い場合に用いられる表現であるから、よく分からないものとして提示する「って」とはなじまない表現である。「よ」を「ね」に置き換えれば許容度は高くなる。

⑨は、属性表現であるにもかかわらず、許容度が落ちるのは「よくできていた」という過去形の影響であろう。時間的な要素を含まない「よくできている」という表現の方が「レポート」の属性表現としては、より一般化した（普遍的な）表現となる。

以上の考察から、次のようにまとめることができる。

「って」は名詞を記号形式しか知らない要素として提示したり、観念化して提示したりするために、述部では基本的に何らかの属性が述べられるか、存否が述べられることが多いが、「って」の用法は拡大しており、「好き、嫌い」や経験の有無など典型的な属性表現や存否の表現からずれた用法も許容されつつある。これらの表現は属性表現、存否の表現に近いものほど許容度が高い¹¹。

8 ま と め

「って」は引用形式である「とて」から生じたものであり、「言表・思考内容の引用」が最も基本的な働きである。この基本的な働きから「連体修飾」や「逆接」、「文末表現」の用法が派生することになる。

そして、「言表・思考内容の引用」と「連体修飾」の用法から、「主題提示」という用法が生じる。この主題提示の用法は、「言表・思考内容の引用」から派生した「記号形式しか知らない要素として提示する」という働きを持つ。また、「連体修飾」の用法から派生した「観念化して提示する」という働きも持つ。このような働きを持つ「って」によって提示された要素は、述部において属性（したがって記号内容）や存否について述べられることになる。そして、典型的な属性表現や存否表現から、以下のような用法の拡大が見られる。

- ・看護師の仕事ってキツイのよ。〈属性〉（ガラス）
- ・私、土曜日って大好き。〈好き嫌い〉（スイート）

- ・ザリガニって食べれるんですか? 〈可能〉(インターネット)
- ・注文ってカフェラテのトールでしたっけ? 〈指定〉(最後)
- ・先生, そういう虹ってあるの? 〈存否〉(エジソン)
- ・キャベツ人形って知ってる? 〈知識の有無〉(エジソン)
- ・銭湯って行ったことある? 〈経験の有無〉

「言語形式しか知らない要素として提示する」「観念化して提示する」ということは、指示対象の輪郭をぼかすということにもつながる。指示対象の輪郭が不明瞭になることによって、指示対象は「よく知らないもの」として提示されることになる。その結果、「って」を用いた文においては、「質問」や「疑問」、「同意要求」というモダリティが用いられやすい。また、「新しい定義づけ」や「再定義」といった文内容を持つことから、「発見」のモダリティも用いられやすい。その一方で、明確に断言するような「断定」のモダリティは「よく知らないもの」として提示する働きとは矛盾するため、用いられにくい。

この「よく知らないもの」として提示する用法は広がりを見せている。よく知らない対象として提示するということは、情報量という観点から見ると一種の謙虚さととらえることもできる。本来持っている情報量を少なく見せることで、「私はよく知らないんだけど」といったニュアンスが加わり、「和らげ」の効果を出していると考えられる。「同意要求」や「質問」といったモダリティにおいて「って」が用いられやすいことも、「和らげ」効果と無関係ではないだろう。「ぼかす」表現を好む、若い世代を中心に「って」の用法が属性や存在から徐々に離れて(広がって)いく可能性は否定できない。

本稿では、引用形式「って」がどのような用法の広がりを見せ、主題提示の用法は引用形式の中にどのように位置づけられるか、主題提示の用法はどのように広がっているのかについて考察した。「って」の主題提示の機能をより明確にするためには、「は」や「φ」(無助詞形式)などによる主題提示の機能と比較する必要があるが、この点は別稿に譲ることとする。

〈注〉

- 1 牧は、この両者は歴史的にみて成立の過程が異なると述べている。「引用」のほうは「といひて」から成立したものであり、「指示」の方は「とありて」から成立したものであり、省略されている動詞が異なると推測している。
- 2 現代語においても、動詞の「テ形」は文脈によりさまざまな関係で接続しうる。
 - ・家に帰って、勉強する。(継起)
 - ・走って帰る。(付帯状況)
 - ・ペットボトルを使って、ロケットを作った。(手段)
 - ・お腹がすいて、歩けない。(原因・理由)
- 3 ここでいう引用動詞とは、引用を示す格助詞「と」を取ることができる動詞で、「言う、話す、告げる、述べる、書く、願う、頼む、命令する、誘う、聞く、質問する、呼ぶ」などの言語関係の動詞と、「思う、考える、感じる、知る、予想する、信じる、期待する、決める」などの思考

関係の動詞が該当する。引用動詞以外の動詞を非引用動詞とする。

- 4 ただし、牧 (1997b) の分類においては、文の構造という点は考慮されていない。
- 5 次の例文のように、引用動詞の倒置表現からの派生という解釈も可能である。
・でも最近出会った人が言った。生きててよかったって。(ガラス)
- 6 田窪は名詞句のモダリティという観点から考察しており、話し手自身がすでに知識として持っている要素に言及する場合と、相手によって導入された新たな要素に言及する場合とは異なった言語形式を用いているとしている。
- 7 丹羽 (2006) には「捉え直すというのは述語や文全体で表されることであり (p250)」という記述も見られるが、「って」の用法を「言葉を再現して提示する」と「捉え直し題目提示」に分類していることから、引用提示という文中での機能と捉え直しという文全体の叙述の性質を同じレベルで扱っているように解釈できる。
- 8 たとえば、北原 (1984) p84
- 9 147名の大学生を対象に、2010年9月に実施。質問項目は p49 の①～⑩に次の4例を加えたもの。
 - 1) 私(僕)、宮沢りえって好き。
 - 2) (しばらく話したあとで) ところで、あなたってどなた？
 - 3) (A大学へ教えに行っているB名大学の先生がA大学の先生に) 君の大学の学生ってよく勉強するね。
 - 4) この鮭って塩辛いね。
- 10 次の例のように「そんな」の表す内容が具体的に明示されていれば、「そんな○○って」という表現の許容度も高くなるものと思われる。
「…この国ではどの職場もだけど、金曜と月曜はやたら突然の“病欠”が多いそうで、金曜と月曜も連休が多いのよ、……ごめんね」とイギリスの代わりに謝りますと、「いいなあ、そんな国って」と、心から羨ましそうな顔をしながら…(ロンドン)
- 11 丹羽 (1994) は、「あなた、本ってよく読む?」「爾ごたえのあるかたい物って食べないんですか?」という用例を挙げ、「こういう場合『読む』対象としての『本』、『食べる』対象として『爾ごたえのあるかたいもの』の存否が問題にされている」と述べているが、これらの用法まで「存否」の表現と解釈するのは無理がある。これらの表現は「属性」や「存否」からさらに拡張された用法と考えるべきだろう。

参考文献

- 青木恵子 (1998) 「談話における『って』の機能とその主観化」『人文論究』65 北海道教育大学函館人文学会編
- 安齊真生 (2001) 「『って』の機能について ある名詞句の属性を捉え直す用法に注目して」『ことばの科学』14 名古屋大学言語文化部言語文化研究会
- 北原保雄 (1984) 『日本語文法の焦点』教育出版
- 此島正年 (1973) 『国語助詞の研究—助詞史素描』桜楓社
- 三枝令子 (1997) 「『って』の体系」『言語文化』34 一橋大学語学研究室
- 田窪行則 (1989) 「名詞句のモダリティ」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 竹林一志 (2002) 「主題提示『って』の用法と機能」『日本語教育論集』18 国立国語研究所
(2004) 『現代日本語における主部の本質と諸相』くろしお出版
- 手塚正昭 (2001) 「『って』形式の主題」『宇大国語論究』12号 宇都宮大学国語教育学会
- 丹羽哲也 (1993) 「引用を表す連体複合辞『トイウ』」『人文研究』45 (1) 大阪市立大学文学部
(1994) 「主題提示の『って』と引用」『人文研究』46 (2) 大阪市立大学文学部

(2006)『日本語の題日文』和泉書院

- 朴序敬 (2006)「『って』の許容度 1992年と2003年の調査結果から」『ことばの科学』19
名古屋大学言語文化研究会
- 福島悦子・上原聡 (2005)「丁寧体の会話における『と』と『って』の使用に関する一考察」
『東北大学国際交流センター紀要』1
- 普久原イザベル (1995)「〈同定説明〉と〈特質説明〉——『って』『というのは』を中心に」『日本語・日本文化研究』5 大阪外国語大学日本語講座
- 藤村逸子 (1993)「わからないコトバ、わからないモノ——『って』の用法をめぐって」
『言語文化論集』14 (2) 名古屋大学言語文化部
- 又平恵美子 (2001)「『イチゴが完っている』という表現」『筑波日本語研究』6
- 丸山直子 (2002)「話しことばの助詞『って』を中心に」『日本文学』98 東京女子大学
- 牧 典子 (1997a)「『って』その成立と現在の使用傾向について」『熊本大学留学生センター紀要』1
- 牧 典子 (1997b)「『って』の分析と考察 近代・現代の小説中に見る『って』使用の変化と現在の傾向」『国語国文学研究』32 熊本大学法文学部国語国文学会
- 渡辺誠治 (1995)「ある要素に対する新規の属性の取り入れに関わる形式——『ッて』と『φ』を中心に」『日本語・日本文化』21 大阪外国語大学留学生日本語教育センター

用例の出典

- (ぼく) 山田詠美『ぼくは勉強ができない』(新潮文庫)
- (スイート) 江國香織『スイートリトルライズ』(幻冬舎文庫)
- (ロンドン) 高月園子『ロンドンはやめられない』(新潮文庫)
- (任侠ヘルパー) 古家和尚「任侠ヘルパー」『ドラマ』2010年2月号 映人社
- (エジソン) 大森美香「エジソンの母」『ドラマ』2008年3月号 映人社
- (お買い物) 前田司郎「お買い物」『ドラマ』2009年3月号 映人社
- (シバトラ) 武藤将吾「シバトラスペシャル」『ドラマ』2010年2月号 映人社
- (ガラス) 野条美山紀「ガラスの恋人」『ドラマ』2009年3月号 映人社
- (最後) 金子茂樹『最後の約束』『ドラマ』2010年2月号 映人社
- (朝日) 朝日新聞 朝刊

The Usage of Quotation Form *-tte* as a Topic Marker

Yuichi Sato

The Japanese colloquial quotation form *-tte* is used in various ways. These usages are derived from its basic function as a quotation marker. However, it is now also used to indicate words or sentences that are not themselves quotations. The quotation form *-tte* also now has the function of marking a topic.

The topic marker *-tte* indicates that the topic is one which the speaker does not know well. This type of sentence is frequently used, because to indicate that the topic is something which the speaker does not know well leads to a certain humility.

In addition, the usage of topic marker *-tte* has spread. It used to be that *-tte* was used only with the topic of an attributive expression. However, recently it is not only used to describe attributes but it also indicates a person's tastes or experiences.

The quotation form *-tte* has spread from marking a quotation to indicating a topic marker, and the usage of the topic marker itself also shows signs of spreading.